

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01628

研究課題名（和文）中小企業の組織変革に関する研究

研究課題名（英文）Research on organizational transformation of small and medium enterprises

研究代表者

小野 善生（Ono, Yoshio）

滋賀大学・経済学系・教授

研究者番号：80362367

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究においては、清酒製造業とバルブ産業を対象とした地場産業を構成する中小企業におけるマネジメントの比較研究を行う目的であったが、新型コロナウイルスの影響によりバルブ産業の調査が中止となり、清酒製造業における調査のみになった。清酒製造業を対象とする調査については、清酒製造業におけるイノベーションの歴史的研究を始めるに至り、成果として清酒製造業におけるイノベーションの歴史的研究を公開することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、日本の伝統産業である清酒製造業、とりわけ、地方に本拠地を置く中小清酒製造業者の事業転換を対象とした経営学からのアプローチによる研究である。研究の過程で、現在に至るまでの清酒にまつわる技術革新を中心とするイノベーションの蓄積が業界の特性および企業行動に多大なる影響を及ぼしていることがあきらになった。そこで、経営史的観点から日本における酒造の萌芽期から明治・大正期にいたるまでの清酒製造業にまつわるイノベーションの歴史的分析を実施した。本研究においては、ジャンルにとらわれることなく清酒製造業のイノベーションに関する諸研究を渉猟してイノベーションの類型化を実施したことに意義がある。

研究成果の概要（英文）：The outcome of this study is a historical analysis of the innovations that have been accumulated in the sake brewing industry from its early days to the Meiji and Taisho periods.

研究分野：経営学

キーワード：組織変革 戦略転換 イノベーション 経営史 質的研究

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

本研究は、そもそも中小清酒製造業を対象とした調査を2014年から、そして、滋賀県のバルブ産業に関する調査を2018年より開始していた。いずれも中小企業を対象とした調査であり、地方に根付いた産業であることから、両者の事例を比較検討したうえで、中小企業および地域に根付いた中小企業が事業環境の変化に対して、いかに対応してきたのかを明らかにするという主旨で構想された研究である。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、伝統産業あるいは地場産業に携わる中小企業が環境の変化に対して適応していったのかを明らかにすることである。具体的には、経営者がどのような意図で組織変革を決意し、いかなる変革行動を実施し、どのような変革を成し遂げたのかについてフィールド調査から得られたデータを質的に分析して調査研究を進める。

(2) 調査対象に関して、伝統産業としては清酒製造業を取り上げる。対象となる地域としては、所属する滋賀大学の地元滋賀県の酒造業と独自の酒文化がはぐくまれている高知県の酒造業を対象とする。一方、地場産業については同じく所属先である滋賀大学の地元滋賀県彦根市の代表的地場産業であるバルブ産業を対象に研究を進める。

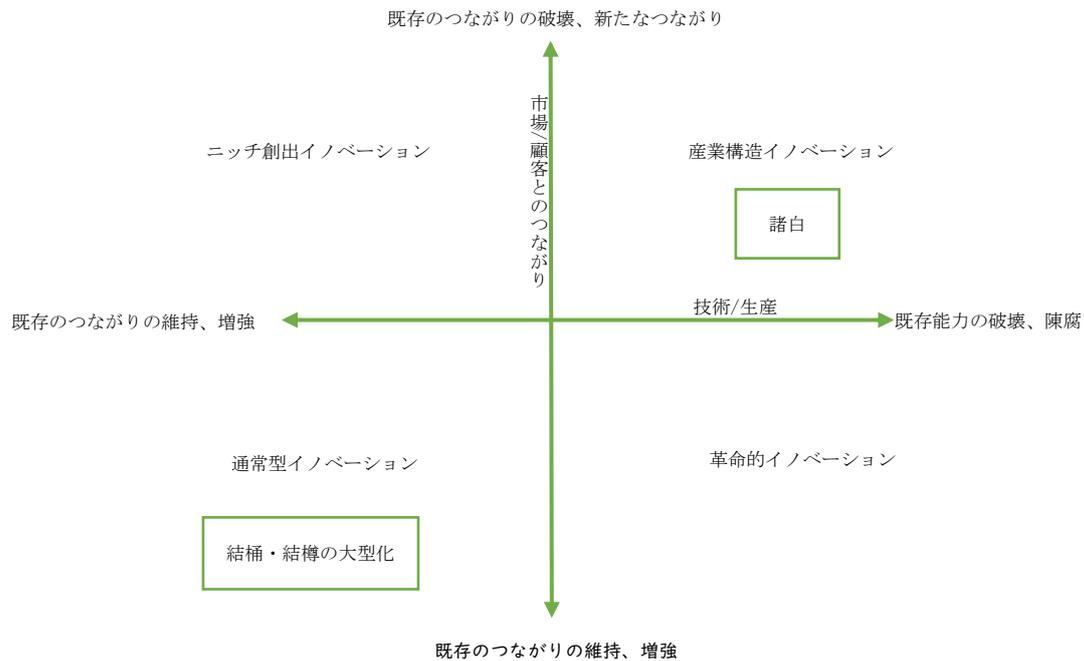
3. 研究の方法

(1) 本研究のフィールド調査において採用した研究方法は、質的研究法である。具体的には、フィールド調査による当事者への聞き取り調査（インタビュー調査）、調査協力者より提供された内部資料の分析、調査対象先あるいは調査対象の業界に関連する雑誌媒体・データの分析からなる。これらの文書データは、ラベリング→カテゴライズ→核となる概念の導出→概念間の関連性の特定という過程で質的データの分析を実施した。(2) 清酒製造業における歴史的発展過程におけるイノベーションの類型化においては、清酒製造業の歴史に関する資料及び先行研究さらには関連資料を用いてイノベーション研究における新結合の類型および変革力マップの分析枠組に基づいて実施した。

4. 研究成果

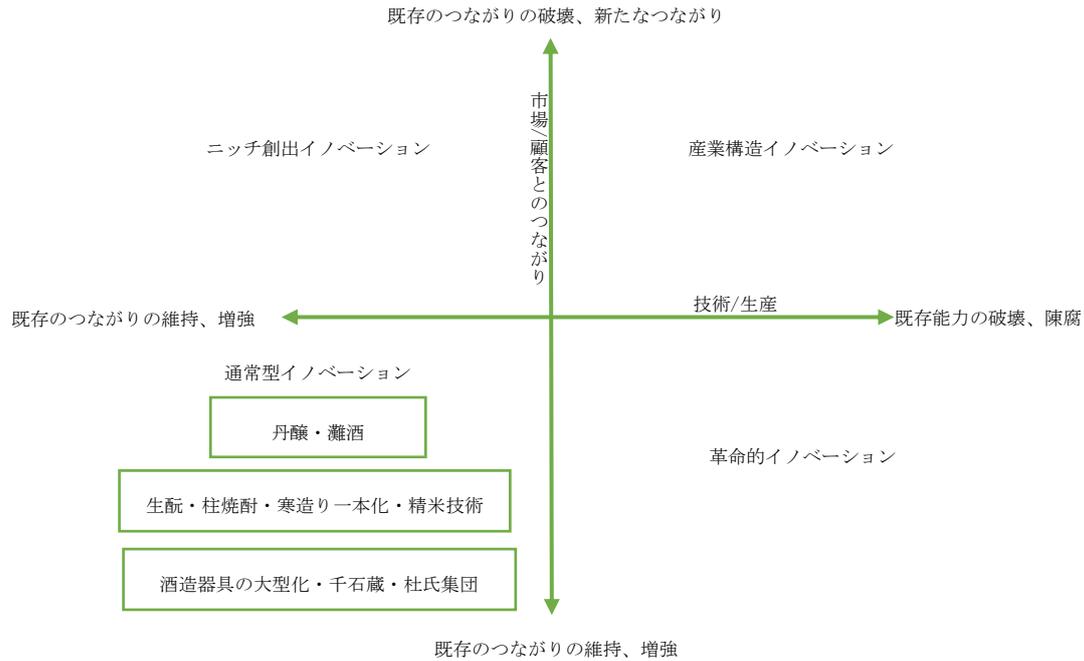
(1) 令和3年度の研究成果としては、本研究の主たる対象である中小清酒製造業に関して大きく分けて2つの点から研究実績をあげることができた。第1の実績は、中小清酒製造業における組織変革の方針として吟醸酒を主体とする高付加価値製品へ主力商品ラインナップを刷新していることにある。高級酒路線への転換を可能にしたのは清酒が有する商品特性ではないかという仮説のもと、清酒のルーツから現在のものに至るまでいかなる清酒においていかなる革新がもたらされたのかを明らかにする研究に着手した。稲作文化が定着した頃から現在にいたるまでの清酒のイノベーション分析については、今年度においては清酒のルーツから現在の清酒の原型となった室町期から安土桃山期に確立された南都諸白までの分析を行った。この成果については、小野善生(2021)「清酒製造業における革新Ⅰ-清酒の起源から諸白の登場に至るイノベーションの史的考察-」『彦根論叢』429号 4~19頁に発表することができた。第2の実績は、清酒製造業における組織変革に関するフィールド調査の進展である。今年度においては、滋賀県の清酒製造業者というくくりではなく、清酒製造業者をまきこみ地域おこしの一環として実施された「百済寺樽復活プロジェクト」の取り組みを対象としたフィールドワークである。昨今、地酒を地域おこしの一環として活用されている例がある。地域の歴史や伝統に裏付けられたストーリーが地酒のブランド価値を高めるという点で、地域おこしだけではなく清酒製造業者にとってウィン-ウィンの関係になる。「百済寺樽復活プロジェクト」は、滋賀県で醸造された最古の酒である「百済寺樽」を現在に甦らせて、百済寺中心とする地域を活性化しようというプロジェクトである。この事例について、プロジェクトの発起人と舞台となっている百済寺の住職への聞き取り調査を実施した。

変革カマップに基づく黎明期から南都諸白の登場までの清酒醸造技術のイノベーションの 類型化



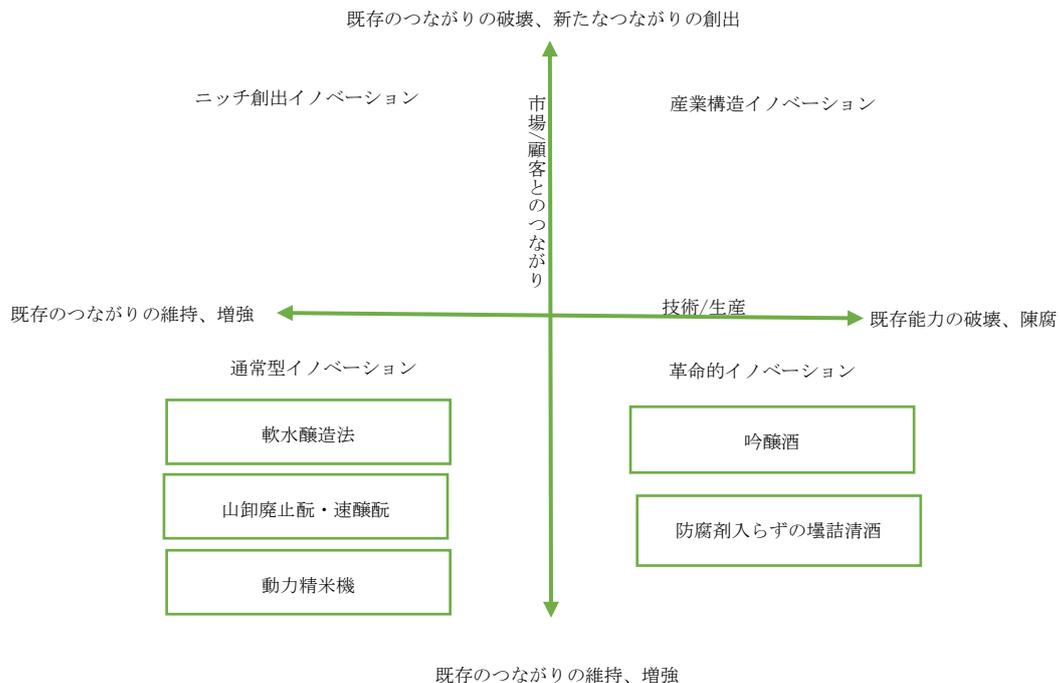
(2) 令和4年度の研究成果の研究成果としては、中小清酒製造業へのフィールド調査に関して新型コロナウイルスの影響で現地に足を運ぶ機会が減少したが、受け入れ可能な清酒製造業者（滋賀県の清酒製造業者1社：愛知酒造有限会社）に対してはフィールド調査を実施した。フィールド調査と並行して清酒の製品特性に関して、清酒のイノベーションに関して史的観点から類型化を昨年度より行っている。令和4年度は、日本における酒の萌芽期から現在の清酒の原型である南都諸白が登場した安土桃山時代までの清酒のイノベーション分析を行った。続く今年度は、江戸時代の清酒製造業におけるイノベーション分析を行った。この研究成果は、「清酒製造業における革新Ⅱ：南都諸白から丹醸そして灘酒に至るイノベーションの史的考察」『滋賀大学経済学部研究年報』29巻（頁1～25）として発表した。これまでの研究成果については、しがだい資料展示企画展「近江酒造家の情熱と行動」という形で一般公開された（令和4年7月5日から12月23日まで）。この企画展においては、来館者向けのギャラリートークを複数回実施し、特別イベントとして松瀬酒造株式会社社員の石田敬三氏とのスペシャルトークイベントを行った。ギャラリートークならびにスペシャルトークイベントは、中日新聞、毎日新聞の地方版で報道された。理論的フレームワークとなる組織変革論に関しては、主要研究に関する渉猟を行った。

変革力マップに基づく江戸期における清酒醸造技術のイノベーションの類型化



(3) 令和5年度の研究成果として、中小清酒製造業へのフィールド調査については滋賀県の清酒製造業者1社を対象に行った。清酒製造業におけるイノベーション分析については今年度においては、科学技術が清酒製造業にもたらされた明治・大正期における清酒製造業を分析対象とした研究を実施した。実地調査に関しては現在も継続中であり論文や研究書という形で成果を発表する段階には至っていないが、イノベーション分析については、小野善生(2023)「清酒製造業における革新Ⅲ：明治・大正期における清酒に関するイノベーションの史的考察」『滋賀大学経済学部研究年報』30巻1-28頁を公刊することができた。

変革力マップに基づく明治・大正期における清酒醸造技術のイノベーションの類型化



参考文献

- 小野善生(2021)「清酒製造業における革新Ⅰ-清酒の起源から諸白の登場に至るイノベーションの史的考察-」『彦根論叢』429巻4-19頁。
 小野善生(2022)「清酒製造業における革新Ⅱ：南都諸白から丹醸そして灘酒に至るイノベーシ

ヨンの史的考察』『滋賀大学経済学部研究年報』29巻1-25頁。
小野善生（2023）「清酒製造業における革新Ⅲ：明治・大正期における清酒に関するイノベーションの史的考察』『滋賀大学経済学部研究年報』30巻1-28頁。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 小野善生	4. 巻 29
2. 論文標題 清酒製造業における革新 : 南都諸白から丹醸そして灘酒に至るイノベーションの史的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 滋賀大学経済学部研究年報	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野善生	4. 巻 429
2. 論文標題 清酒製造業における革新 -清酒の起源から諸白の登場に至るイノベーションの史的考察-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 彦根論叢	6. 最初と最後の頁 4-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小野善生	4. 巻 30
2. 論文標題 清酒製造業における革新 : 明治・大正期における清酒に関するイノベーションの史的考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 滋賀大学経済学部研究年報	6. 最初と最後の頁 1 - 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------